



ガレキの中で倒れた人 判別

3次元認識ロボ



ロボットテクノロジ

【名古屋】キャリオ技研(名古屋市東区、富田茂社長、052・627・0495)は、カメラで3次元の対象物を自動認識する災害時探査用二足歩行ロボットを開発した。これまで難しいとされていた横向きになった人間の顔などを認識でき

キャリオ技研が災害用

ガレキの中から確実に対象物を捜し出せる。重さ約1kgの对象物なら搬送も可能。2012年8月をめどに発売する。価格はロボットを運ぶ無線操縦ヘリコプター込みで2000万円程度。カメラで3次元の対象物を自動認識する災害探査用ロボットは珍しい。頭部に電荷結合素子(CD)カメラを搭載。事



重さ約1kgの对象物なら搬送可能

前に登録した対象物の3次元CADデータを基に探査し、遠隔地にあるモニターに画像を表示する。人が目でモニターの画像を確認して対象物を探す場合に比べて、周囲のガレキやゴミに影響されにくい。同時に複数の対象物を認識できる。

ロボットは身長36センチ、重量は1.5kgで狭い場所での探査に向く。大きさが容量1リットルのペットボトル程度で重量約1kgまでの対象物であれば、ロボットの腕で保持して運べる。時速360センチで移動し、活動範囲は半径約1メートル。リチウムイオン二次電池を搭載し、1回の充電で約20分稼働できる。

同社の無線操縦ヘリコプターと組み合わせればロボットを探索場所近くまで搬送可能。「東日本大震災の被災地などで要請があれば現場での作業を請け負う」(富田社長)とし、ロボット販売だけでなく探査も手がける。